

● センターを運営する学生スタッフの育成

大学ボランティアセンターの運営形態は大学によって様々ですが、本学のボランティア・NPO活動センターでは、教育職員・事務職員・学生スタッフの3者が協働して運営しています。中でも、学生スタッフは「ピアサポート」という観点から、本学学生のボランティア活動を応援する重要な役割を担っています。

ボランティア相談をはじめとする日常的なコーディネート業務、チラシ整理やメールマガジンなどの情報提供、ボランティア活動を始めるきっかけとなる様々な企画など、学生スタッフが取り組んでいることは多岐にわたり、そのためには幅広い知識や経験が必要となってきます。

このことから、ボランティア・NPO活動センターでは、ボランティア活動を推進していくために社会課題に対する意識を持ち、社会に働きかけていく力をもった学生スタッフの育成を図るとともに、組織運営力、コーディネート力をつけることなどを目的として、学生スタッフへさまざまな研修の機会を提供しています。

企 画 名	発見！成長！新しい自分にワクワクドキドキ オリエンテーション合宿 in 2013
日 時	2013年5月25日（土）13時00分～26日（日）16時00分
場 所	龍谷大学セミナーハウスともいき壮
実施主体	ボランティア・NPO活動センター（瀬田）
参加人数	計104名（学生スタッフ98名、教職員6名）
企画メンバー （学生スタッフ）	根縫 凌馬、岸本 慧、山下 凌司、西本 史佳、吉澤 康介、星野 智子、森本 浩司

■経緯・目的

瀬田・深草の学生スタッフ7名（瀬田：岸本・山下・西本、深草：根縫・星野・吉沢・森本）とコーディネーター2名（東郷・竹村）が実行委員となり合宿の運営を行いました。センター・学生スタッフの役割について学びや再認識を促し、それぞれが学生スタッフとしての発見、また成長の機会となることを目指しました。さらに学生スタッフの交流、モチベーションの向上も視野にいたした合宿を企画・運営しました。

■概 要

【1日目】

- ①開会挨拶：笠井賢紀 副センター長
- ②アイスブレイク「名前と動作の足し算」
「みんなで文字ピッタン！」
初めて顔を合わせるスタッフが多いため、お互いの名前を覚え、緊張をほぐすこと目的にアイスブレイクを行った。
- ③企画プログラムⅠ
・「ここから始まるオリテ合宿」
パワーポイントをつかった学生スタッフの活動紹介

- ・「君が受け継ぐ極意」
- ・「ボランティアのNO！GOOD！」
ボランティアについて先輩スタッフから新スタッフにアドバイスやボランティア経験、注意することなどを伝えた。

- ④講義「ボランティアセンターの理解」
筒井のり子センター長から龍谷大学ボランティア・NPO活動センターの成り立ちの説明や、センターのあり方を考えるワーク。

⑤交流会

【2日目】

- ①朝のレクリエーション
体を動かし、目を覚ます。
- ②企画プログラムⅡ
・「ボラつく！」
ボランティアと社会的な課題について視野を広げるワーク
・「コーディネーターワーク」
- ③まとめ、振り返り
・「かげほめ」
グループ内でほめあう
・振り返りと共有
- ④閉会式 あいさつ

■参加者の声

- 新しい発見があった。今年1年の間に学生スタッフとして、やってみたいことが見つかったよかった。
- 2回生になり、新スタッフと一緒に合宿に参加して、改めて先輩としてしっかり頑張っていこうと思いました。
- 3回生として3度目のオリエンテーション合宿への参加だったが、まだまだ学ぶことがたくさんあった。学んだことを活かし、基本的に忠実にコーディネートに取組みたい。
- 普段は深草キャンパス・瀬田キャンパスに分かれて活動している学生スタッフだが、合宿に集い、積極的に意見交換ができた。やる気が出てきた！



■得られた効果

学生スタッフとしての基本知識を発見または確認できた。

また、スタッフの中にはこの合宿をきっかけに企画を考案する姿もみられたので、普段考えなかった視野についても広げられ今後の学び・成長に大きな役割をもつことができた。交流という面でも、二日目には新スタッフがなごんだ表情で話す姿があった。

■学んだこと・今後の課題

- 合宿の内容をつくる過程でセンター・ボランティアコーディネートへの理解をより深められた。また、ワークの作り方を学ぶ機会になった。
- 当日、進行で雰囲気作りをできずに、メリハリを感じられない場面が何度かあったので、今後気を配らなければならないと学んだ。
- キャンパス間での共有不足、また通しのリハーサルができなかったため、企画メンバーのなかでワーク内容、進行の仕方を把握できていなかった。そのため、ワーク中の指示が錯誤、グループの補助の仕方があやふやであった。ワーク中の指示・何をする時間かを徹底して伝えるべきだった。
- 事前準備不足、持ち物やワークシートの確認がぎりぎりまでできなかった。その要因としてワーク内容の詳細を確定するのに時間をかけすぎたことがあげられる。
- 今回、参加した学生スタッフが例年に比べ多かったこともあり、宿舎のロビーに人があふれることがあり、学生スタッフの移動を考慮したうえで準備にあたる必要があった。

〈報告者：岸本 慧〉



企画名	夏合宿（深草）～鉄は『暑い』うちに叩け！～
日時	2013年9月6日（金）10時30分～9月7日（土）15時00分
場所	京都府立ゼミナールハウス
実施主体	ボランティア・NPO 活動センター
参加人数	39名（学生38名 コーディネーター1名）
企画メンバー （学生スタッフ）	山口 駿、田部 翔、中北 梢、木谷 翔太、佐野 颯、白土 奈央

■経緯・目的

前期に学生スタッフの各々がそれぞれの活動を通じて、ボランティアについて、センターの活動について学んできました。そこで、前期に学んだこと、体験したこと、そして改善点を挙げ、それを全員で共有する機会をもつ為に、また、それを吸収しスキルアップする機会をもつ為に、この合宿を実施しました。いつもとは少し違う環境での1泊2日の話し合いを経て結束力を高めつつ、一人ひとりがセンター学生スタッフの一員としての自覚を持ち、同じ方向を向いて活動していけるような合宿を目指しました。

■概要

【1日目】

- ・前期の振り返り（前期の活動を振り返る）
- ・ワーク①ボランティアについての理解を深める
- ・ワーク②コーディネート力を高める
- ・食事など
- ・交流会
- ・就寝

【2日目】

- ・朝のレクリエーション
- ・ワーク③（ファシリテーションについて学び、考える）
- ・まとめワーク（この合宿で学んだことをまとめ、後期に活かせるようにする）
- ・昼食



■参加者の声・得られた効果など

- ・学年の垣根を越えた交流ができた
- ・自分とは違う意見を知ることができ、考え方が広がった
- ・初めて模擬コーディネートを行ったので、勝手がわからず戸惑ってしまった
- ・ファシリテーターは司会ではなくまとめ役ということを学んでから実際にやってみて、難しく感じた
- ・周りから見ていて、ワークの内容を1回生に任せすぎたのではないのかと思った

■学んだこと・今後の課題

夏合宿は、前期の活動が終わり、これから後期の活動に入っていくための、いわば一年の振り返り地点である。今回の合宿は、各学年でそれぞれ違った学びを得ることができた。特に1回生は前期に学びきれなかったボランティアに対する基本的な知識や、コーディネートに関する知識を、この合宿中にしっかりと学ぶことができていた。上回生も1回生のそのような姿に刺激を受けて、さらにボランティアやコーディネートについての理解を深め、スキルアップしているように見受けられた。

反省点としては、施設の使用可能時間の認識が甘く、ワークの時間をころころと変えてしまった点で、企画メンバー含め全体に迷惑をかけてしまった。また、事前準備には特に重きをおいて意識してきたのにも関わらず、やはり合宿日の直前になって慌ててしまった。夏休み中のミーティングの少なさや連絡の行き違いという点も反省に上がったので、これらの反省点をしっかりと今後活かしていきたい。

〈報告者：山口 駿〉

企 画 名	夏合宿（瀬田） ～「熱い×暑い夏合宿」今こそ見せる!!これが俺たちの熱意だ!～
日 時	2013年9月17日（火）10時00分～17時30分
場 所	龍谷大学瀬田キャンパス2号館108教室
実施主体	ボランティア NPO 活動センター（瀬田）
参加人数	48名（学生スタッフ47名・コーディネーター1名）
企画メンバー （学生スタッフ）	首藤 翔真、吉田 裕貴、北岡 なつみ、岸本 慧、桑原 初音、小林 陽太、 樋口 朝香、余根田 敦

■経緯・目的

学生スタッフの活動をよりよくするために、『前期の振り返りをして後期に生かし、後期へのモチベーションを上げる。』ということを実践の第1の目的として夏合宿を実施しました。

また、新スタッフと先輩スタッフとの連携性を高めるため、『先輩と後輩との壁を無くす』ということを実践の第2の目的としました。

今回、前日に発生した台風被害のため合宿の1日目を中止にし、プログラムを短縮して開催したので、2日間で計画していたプログラムの内、優先順位が高いと考えられるものを1日で行いました。

■概 要

・アイスブレイク（10：00～10：30）

合宿のスタートにあたり、ワークを充実させるために、1～5回生までの団結を高めるために、人間知恵の輪をしました。さらに、ボランティア NPO 活動センターの前期の活動を再確認するために瀬田キャンパスのチェックポイントにいるコアメンバーから出されたボラセンに関するクイズに答えました。

・ロダンワーク（10：30～12：30）

「発言を増やす」という目的のもとミーティングについて考えるワークで、少人数のグループでミーティングをしながらファシリテーション経験の少ない2回生がファシリテーター役になり、ミーティングについて考えました。

・コーデワーク（13：30～16：00）

自分たちがボランティアコーディネーターである意識をより高める必要があると感じたため、「学生ボランティアコーディネーターになる」という目的のもと、1部では大学ボランティアセンターの必要性について考えるワーク、2部ではコーディネートについて深めるワークをしました。

・災害ワーク（16：10～17：00）

今回起こった台風被害から、学生スタッフは実際に被害があったらどんな対応をするのか、いつ起こるか分からないので、事前にどんな対策をとるのかについてグループに別かれて話し合いました。

・振り返り（17：10～17：30）

アンケート、コアメンバーの挨拶、写真撮影など

■参加者の声・得られた効果など

- ・アイスブレイクをしたことによってその後の活動に積極的に取り組めるようになった。
- ・ロダンワークでは発言やMTの大切さに気付いた。
- ・コーデワークでは「引き出す」ことの重要性が分かった。
- ・災害ワークでは災害のことを考えることはあるが、具体的に話し合うのはあまりないのでよかった。いざというときに役に立つと思う。
- ・1回生が積極的に話してくれた。
- ・1日のみの実施になったので、共有の時間が充分にとれなかった。もっと時間を有効的に使うべきだった。

■学んだこと・今後の課題

ロダンワークでは1回生が積極的に意見を発言していたり、ファシリテーター経験の少ない2回生がファシリテーター役をすることが出来たりしました。しかし、やはり普段ファシリテーターをする学生スタッフがずっと話していたりするなど発言に差が出てしまう結果になったので、今後は差が出ないように当日の企画メンバーの動きを再考する必要があると感じました。

コーデワークでは、第1部で学生ボランティアコーディネーターの必要性を再確認できました。オリエンテーション合宿での振り返りになったという意見もありましたが、その反面

もっと違うワークも考えてもよかったのではないかという意見も出ました。第2部では「引き出す」ということをキーワードにワークを進め、実際にコーディネーションをする時どのようなことを引き出せばいいのかということについて学びました。しかし、ワークの説明が難しく十分に行えなかったグループもありました。

災害ワークでは、急に設定したワークでしたが、企画メンバーが臨機応変に対応でき、限られた時間を有効に使えました。しかし、企画メンバー全体で共有できなかったことがありました。今後このような非常事態が起こった時には出来るだけ早く企画メンバー全員がその事態に対し、必要なワークは何かを考え、想定しておく必要があると学びました。

準備段階ではミーティングの日程が足りていなかったことでワークの準備不足や、班それぞれミーティングをしたので共有不足、班によって負担の差も出てしまいました。今後は、企画メンバー全員がミーティングに出席できる日の調整、進行具合の状況確認を随時確認していきたいと感じました。

今回、コーディネーターに報告する機会を十分にとることが出来ず、共有に苦心しました。ミーティングを行う度にコーディネーターに報告する必要があることを学びました。また、合宿2日目の実施決定についての対応を企画メンバーで決めて、発信してしまいコーディネーターに相談することを怠ってしまいました。これからは現状報告や今後の動きについて相談回数を増やさなくてはならないと感じました。非

常事態時には、コーディネーターと何時間おきに連絡するのかを決めることによってこの点については改善されると考えられます。また、他の学生スタッフに対する配慮も考えていかなければならないと思いました。

今回、第1の趣旨・目的は『前期の活動振り返りをして後期の活動に活かし、後期へのモチベーションを上げる』ことでしたが、ミーティングをしていく上で、あまり意識出来ませんでした。今後はミーティングをする前に議事録などに書くなどして、趣旨・目的を毎回確認しなければならぬと感じました。

第2の目的である『先輩と後輩との壁を無くす』については、1日だけの内容になってしまったため十分に達成出来ませんでした。

途中、天津市社会福祉協議会から台風災害復旧ボランティアの要請があり、3人が抜ける事態が発生しましたが学生スタッフの協力により一致団結して、当日朝に1日分に再構成したプログラムを全て部終わらせることができました。

〈報告者：小林 陽太〉



企画名	春合宿（深草）～基礎を思い出してみよう…ほら、意識が変わったよ～
実施日	2014年3月3日（月）～3月4日（火）
場所	龍谷大学セミナーハウスともいき荘
実施主体	龍谷大学ボランティア・NPO活動センター（深草）
参加人数	28名（学生スタッフ27名・コーディネーター1名）
企画メンバー（学生スタッフ）	山本 富美子、山口 駿、田中 奏多、藤原 恵太、山本 翔、白土 奈央、中村 太紀

■経緯・目的

『学生スタッフの活動をより良くし、新スタッフを迎える体制を整えるため、今年度の活動の振り返りを行い、来年度の活動へ活かす』とい

う春合宿本来の目的に沿い、『基礎を思い返す』、『意識チェンジ』を目標に掲げて今回の春合宿を実施しました。

■概 要

【1日目】

13:00～ 開会式、アイスブレイク

13:30～ 2013年度の振り返り

- 来年度のスケジュール確認
年表を使用し、どの時期にどの企画を行ったのか1年を通して行う活動や班活動について共有。
- 個人の振り返りシートを記入し振り返り（主に企画と所属の班について）
- 個人の振り返りを踏まえ、全員で企画と班についての詳しい振り返りを行い共有する
- 来年度の活動の大まかな流れを確認

15:00～ プレゼンテーションワーク

- 自分の最も得意なボランティアの分野（海外、環境、福祉）の魅力のスライド方式でプレゼンテーションを作成し、3人グループ内で1人3分間プレゼンテーションを行う。個人の伝える力をつけることを目的としたワーク。

16:30～ 模擬コーディネートワーク

- 学生スタッフ役、来室者役、審査員役の3人1組のグループに分かれる。学生スタッフ役は、キャラクター設定をした来室者役と模擬コーディネートをを行い、審査員役はそのコーディネートの様子をチェックしてもらう模擬コーディネートワーク。

18:00～ 夕食、入浴

20:30～ 交流会

22:00 1日目終了

【2日目】

7:00 起床

7:15～ 朝のレクリエーション（京都御所）

8:00～ 朝食

9:00～ 全体目標決めのワーク

- 組織状態診断表を個人で答えてもらい、自分が考える深草ボラセンの現状を共有する
- 問題と改善策をグループで話し合う
- 1人1個ボラセンの掟（ルール）を作り、共有する
- 掟（ルール）を基に全体目標を決める

12:00～ 昼食

13:00～ 褒め合いワーク

- 4人グループに分かれ、普段はなかなか言えない感謝の気持ちを「ありがとうカード」に



書き、伝え合ってもらおう。次に自分に対して頑張ったところ、褒めてあげたいところを「がんばったねカード」に書き、グループ内で共有する。

14:00～ 個人目標決めのワーク

- 全体目標を基に、具体的な個人目標を全員の前で宣言し、写真をとる。

14:50～ 全体の振り返りシート記入、閉会式

15:00 終了

■参加者の声・得られた効果など

- 自分なりに考えや想いをまとめて話すのは難しいと改めて感じた。
- ユニークなキャラクター設定により、楽しみながら模擬コーディネートができた。
- 目標を決める時にみんなの思いを聞いてよかった。
- 共感できる目標を立てることができてよかった。

■学んだこと・今後の課題

- 目的、目標を企画メンバーで何度も意識して確認できていたため、そこから外れることなく取り組めた。担当を早めに決めて、ワーク内容等も全員で考え計画的に進むことができたが、細かい共有方法を考えなければならぬと思った。
- 全体目標を決める際に、個々人の思いや考えを共有でき、来年度をどのようにしていくか、一緒に考えることができとてもいい機会になった。
- 全体目標と個人目標等、今回決めた内容を口だけで終わらせずに、今後とも意識して常に確認できるよう、目に付くところに掲げ、絶対に達成したい。

〈報告者：山本 富美子〉

企画名	春合宿（瀬田） ～時をかけるボラセン ♡ときめき・きらめき春合宿♡～
実施日	2014年3月17日（月）・18日（火）
場所	龍谷大学セミナーハウス ともいき荘
実施主体	ボランティア・NPO 活動センター
参加人数	31名（学生スタッフ30名 コーディネーター1名）
企画メンバー （学生スタッフ）	山下 凌司、仲田 匡志、貞國 優美子、野中 美華、樋口 朝香

■経緯・目的

普段の活動の中では行うことが難しい1年間の活動のふりかえり、評価を行い、2014年度に向けた準備をする。現在学生スタッフの中で「ボランティアセンター」に対する知識に個人差が大きいことを受けて、新入生に対してセンターの活動や役割を説明できるように知識の統一をはかる。年月の経過と共に薄れがちな初心を思い出し、熱意を語り合うことでセンターに対する思いの向上を目指す。

■概要

【1日目】～In the past～

13:00 開会式、アイスブレイク

14:00 学生スタッフの振り返り

→2013年度の活動を4つの項目ごとに、良いところと悪いところを個人単位で振り返り伝え合った。

16:00 班活動の振り返り

→2013年度の各班の活動を振り返り、他の班から評価やアドバイスを貰った。

18:00 夕食、入浴

20:50 交流会

22:00 1日目終了

【2日目】～In the future～

7:30 Morning Exercise

8:00 朝食

9:00 ボランティアセンターを学ぶ

→ワールドカフェ形式で2議題を話し合い、新たな発見をした。

議題1 『なぜ「企画」をするの?』

議題2 『なぜ学生スタッフが必要なのか?』

11:25 ボランティア経験（前半）

→春休みに各自で行ったボランティアを絵日記にした。それを活用しボランティア経験を共有した。

12:30 昼食

13:30 ボランティア経験（後半）

→前半で共有したボランティアをコーディネート形式で紹介し合い、ボランティアにいきたいという気持ちが向上した。

15:00 合宿の振り返り

→2014年度の決意を考え、みんなの前で宣誓した。

15:30 アンケート記入、閉会式

16:00 終了

■参加者の声・得られた効果など

- 振り返りや仲間からの評価、意見をもらうことで、2014年度の活動に対する意欲、意識が高まった。
- 他の仲間が問題点に対してどうしているか知ることで新たな発見になり、自分の悩みの解決策が見えた。
- 企画の目的や、学スタの存在意義など、普段考えることのないことについて考えることができた。
- 個々が行っているボランティア活動の話を知ることができて良かった。仲間の新たな一面を知る機会となった。
- 2014年度の目標を設定して、仲間の前で宣誓することで 固い誓いになりこれから頑張ろうと思えた。



■学んだこと・今後の課題

- ワーク内容の決定や当日の準備が直前になってしまったため、いつまでにどれだけやるといふ進行の日程をつくり、ミーティングを調整したい。
- ワーク内容の決定を企画者でグループに分かれて行ったことで、ミーティングで共有する際に他のグループから客観的な意見を得ることができ、より良いものになった。しかし、グループごとの議事録をしっかりとっていなかったため、今後はグループでの話し合いの内容も、分担して記録として残していこうと

思う。

- ワークの目的や企画者の意図が参加者にしっかりと伝わっていなかったものがあつたので、意図を伝えるタイミングや、どのように説明するかを、内容と共に考える必要がある。
- 口頭で説明するだけでなくパワーポイントを使用することで、理解が深まり時間の短縮となった。また、ワークが円滑にすすみ、内容も深めることが出来た。

〈報告者：野中 美華〉

外部団体主催の研修会参加

外部団体が主催する研修会やセミナーに学生スタッフが参加し、そこでの学びをボランティア・NPO 活動センターに持ち帰り、組織の運営や企画、ボランティアコーディネートに役立てます。

研修名	大学ボランティアセンター学生スタッフセミナー
日時	2013年9月11日～12日10時30分～16時00分
場所	大阪市立青年センター KOKOPLAZA
実施主体	特定非営利活動法人ユースビジョン
参加人数	深草学生スタッフ2名、瀬田学生スタッフ3名、合計5名

■経緯・目的

活動のパワーアップ、学生スタッフのレベルアップを図ることを目的に、本研修に参加しました。

10:00-12:00 全体会2
12:00-13:00 昼食
13:00-15:30 全体ふりかえり
16:00 写真撮影、セミナー終了

■概要

【1日目】9月11日(水)

10:15-10:30 受付
10:30-11:15 アイスブレイク
11:15-12:45 大学ボラセン紹介
12:45-13:45 昼食
13:45-15:45 全体会1
16:00-18:30 分科会(コーディネーション、企画、広報)
18:45-19:45 夕食
19:45-21:00 チェックイン、入浴
21:00-23:00 交流会

【2日目】9月12日(木)

08:00-09:00 朝食、チェックアウト準備
09:30-10:00 朝のアクティビティ

■参加者の感想

仲田 匡志 (社会学部 2年次生)

高い意識を持つ大学生と話し、他大学を見ることで初めて分かる私たちの大学のセンターの良さ、改善すべき点に気づきました。まず良さについてですが、私たちのセンターは他の大学と比べ、歴史のある組織だと改めて感じました。歴史があることで既に築かれている係、班、企画、地域との繋がりがあり、当たり前のようにそれぞれに所属でき、活動できていることはとても恵まれていることだと思いました。改善点としては、他の組織よりも人数が多いのにも関わらずその人数を活かしきれていないということです。それは、他の人数の少ない組織の熱心な広報や、企画を見て感じました。これだけ人

数がいるのだから、活動の可能性がとても高いと思います。今回の学生スタッフセミナーで学んだこと、また他のイベント参加時にも勉強したことを一人一人に伝え、全体のモチベーションアップに繋がりたいと思います。

山下 凌司 (国際文化学部 2年次生)

今回18大学(複数キャンパスあり)総勢58名の学生スタッフが集まり二日間にわたって、自分たちの活動、これからの活動を考えることができました。それぞれの大学によってセンターの状況は様々で、現在設立のために奮闘中の学生スタッフも多くいました。そのような中で龍谷大学ボランティア・NPO活動センターは設立10年以上の歴史を持ち、大学からの支援もあり、非常に活動しやすい環境であると感じました。

また私たちが日常的に行っている「コーディネート(来室者に対するボランティア紹介)」を職員や専門コーディネーターが行っていたりと、学生スタッフがコーディネートを行っていないセンターがあることを知り驚きました。またそのようなセンターの学生スタッフが他のセンターのコーディネートの話を聞いて、とても関心を持って自分たちも行いたいといった反応が多かったことがとても印象的でした。龍谷大学ボランティア・NPO活動センターにおいては日ごろから来室者に対して学生スタッフがコーディネートを行っており、コーディネートにおける知識、経験が豊富だと感じたのでこれからコーディネートを始める学生スタッフとこれからは連携をとって私たちの知識、経験を伝えていけたら、互いのボランティアセンターが発展していけると感じました。

今回のスタッフセミナーには現在ボランティアセンターの設立を計画中の学生や、これから学生スタッフが活動を開始するボランティアセンターも多数参加しており、そのような学生はこれから自分たちが自分たちのボランティアセンターを作って行きたいという意欲にあふれていて、出来上がったボランティアセンターで活動している私たちが失っていた貪欲さを感じられたと思います。この出会いを大切に、またこれからお互いに刺激し合って活動を行って行きたいと思いました。

田部 翔 (経営学部 2年次生)

このセミナーに参加するまでは自分はあまり他のボランティアセンターの学生スタッフと交流する機会を持てなかったもので、今回初めて他のボランティアセンターのことを知ることができた。

このセミナーに参加して、まず一番に衝撃を受けたのが他の学生スタッフのボランティアに関する熱意が自分とは明らかに違うということである。分科会ではコーディネーションの分科会に参加したが、そこでは自分のボランティアセンターでのコーディネーションは勿論、広報などに対する様々な意見を共有しあった。はきはきと話している学生に詳しく話を聞いてみると、その学生は実は一回生であることを知ってとても驚いた。

このセミナーでほかの学生スタッフと関わって、自分にとっても相手にとっても大いに刺激になったセミナーだと思ったので、ここで上げたモチベーションを切らさずに、これからも学生スタッフとしての活動を頑張っていこうと思う。

山口 駿 (文学部 2年次生)

分科会では広報のプログラムに参加しました。広報のプログラムでは、各大学ボラセンの現在の広報方法を出し合い、その中で特に効果のあるものや、そうでないものについて話し合いました。特に効果のあるものとして、facebookやtwitterなどのSNSをあげている学生スタッフが多くおり、わが龍谷大学のボラセンではそれらの広報手段が取れていないので、今後うまく活用していけるようにしたいと思いました。

このような他の大学の学生スタッフの方々と交流できるセミナーに参加すると必ず、龍大ボラセンがいかに恵まれた環境で活動できているかということに気づかされます。他の大学では、学生スタッフが10人ほどしかいなかったり、自分たちで立ち上げたが大学からの補助がほとんどなかったり、という声をよく耳にします。しかしながら龍大ボラセンはこの恵まれた環境に満足しきっているように感じました。また、いろいろな大学のボラセンに知り合いができるため、大学ボラセン同士の横のつながりをもっと強めて、他大学との合同ボランティアなども企画していけたらとも感じました。

畑中 健吾（国際文化学部 1年次生）

今回、スタッフセミナーに参加したことで様々な学びがありました。自分たちの大学のボランティアセンターを紹介するワークの時には、自分が自分の大学のボランティアセンターのことを全然知らないことに気づき、ボランティアとは何か？を考えるワークの時には、参加者のみなさんの様々な意見を聞くことがで

き、とても新鮮でした。また、分科会では企画について例を通じて学んでいき、他大学の学生スタッフの方のリーダーシップや奇抜なアイデアにとっても驚かされました。このスタッフセミナーで知り合えた方々との繋がりを大事にして、これからも学生スタッフとして励んでいこうと思います。

セミナー名	大学ボランティアセンター学生スタッフ リーダーセミナー 「2014年度に向けて、仕込みをしよう！整えよう！」
実施日	2014年2月12日（水）～13日（木）（1泊2日）
場所	セミナー会場：関西大学 千里山キャンパス教室 宿泊会場：新大阪ユースホステル
主催団体	【主催】特定非営利活動法人ユースビジョン 大学ボランティアセンターリソースセンター 【協力】関西大学ボランティアセンター
全体参加人数	大学ボランティアセンターで活動している学生のスタッフのうち 2014年度の運営の中核を担うリーダー層合計38名（11大学13キャンパス）
参加人数	深草学生スタッフ3名、瀬田学生スタッフ3名、合計6名参加

■目的

このセミナーでは、学生スタッフのリーダー層にとって必要な力・考え方を、他大学ボランティアセンターの学生スタッフと一緒に学びました。また、2013年を振り返り新年度の活動をよりよいものにすることを目的に実施されました。

■セミナー概要**一日目**

- ①開始、オリエンテーション
- ②関西大学ボランティアセンター見学
- ③アイスブレイク、参加者自己紹介
- ④組織マネジメントを学ぶ
- ⑤ふり振り返り

**二日目**

- ①朝のアクティビティ
- ②リーダーの役割を学ぶ
- ③セミナー後の行動計画作り
- ④全体共有
- ⑤質問、まとめ

■参加者の感想**山本 富美子****（文学部 2年次生）**

私は今回初めてスタッフセミナーに参加したことで、新しい発見と出会い、そして様々な学びを得ることができた。その中でも大きく2つの気づきがある。1つ目は、組織を運営するにあたっての奥深さや、リーダーという私自身の理解についての気付きである。組織のマネジメントなどを学び、頭では理解できていてもやはり現実は難しく、問題や課題は絶えない。だが、その現状をどう乗り越えていくか、多岐にわたる方法を今後とも考えていき、実践していく「やりがい」というものを感じることができた。そしてその中で私の役割、立場をしっかりと考えることができ、リーダーとしての私自身を理解

することにより、自分が持っている力を活かせるのだということを感じることができた。2つ目は、他大学との交流による気づきである。他大学の活動や問題、現状を知ること、自分たちと比較して考えられ、参考にできる内容が数多くあると感じた。センターとしての名前からまず異なるところがあり、活動内容や企画作り、広報手段など様々な点で大きな発見があった為とてもいい刺激になった。以上の2点以外にもたくさんの収穫を得ることができ、これらの得たことを、しっかり今後の活動に活かしていく。

仲田 匡志

(社会学部 2年次生)

私は組織の代表として何が出来るか学ぶためにこのリーダーセミナーに参加しました。その中でも特に組織を構成する学生スタッフのモチベーションをあげるということが大切だと感じました。3、4回生がいなくなり一人一人の責任が増したからこそ、どれだけ組織の役に立っているかを個々人に実感させ、自分はそれぞれの存在価値を認めて“ありがとう”をたくさん言うように心がけたいと思います。自分自身も態度でみんなを引っ張っていける存在になりたいと感じました。

山口 駿

(文学部 2年次生)

今回のセミナーはリーダーセミナーということで、各大学から代表や班の班長などの役職についた人たちが参加しており、幹部としての悩みを共有するいい機会となりました。また、大学ごとに違った悩みも抱えており、お互い客観的に意見を言い合うこともできました。

セミナーの内容は昨年に参加したときのものと同じでしたが、忘れていたこともたくさんあり、あらためて幹部としての在り方について考え直すことができました。

他大学では、人数が少ないことに不安を抱えている大学が多くありました。しかしながら、回生ごとに人数制限を設けていたり、入る際に面接を行ったりしている大学も多くありました。必ずしもそのようにする必要はないように感じますが、たしかに人数が多すぎることによる気持ちのばらつきなどはとても感じていま

す。もうすぐ新入生が入ってきますが、今回は人数を入れることよりも、いかにして定着させるかということに重点をおいていきたいと思いました。

野中 美華

(理工学部 1年次生)

大学ボランティアセンター学生スタッフリーダーセミナー2014に参加し、一番印象に残ったことはミーティングなどには、議論・決定の場にいた『参加』ではなく、決定に自分の意見や提案が盛り込まれる、もしくは決定したことに納得している『参画』が重要だということです。また、「目的や目標が共有できていないと、活動にまとまりがなく、グループの一体感も生まれない!」ということに共感しました。これは企画をするにあたってとても大切で、なおかつ見逃しやすく抜かりやすいことだと思うので気を付けていきたいです。これらのことを忘れずに活動に活かし、これからも頑張っていきます。

福田 七海

(社会学部 1年次生)

今回のセミナーでは、2日間をかけて「マネジメント」と「リーダーシップ」について学びました。その中でも特に大事だと感じたことがあります。それは学生スタッフが楽しく活動するための目標・目的・活動計画作りと組織・グループの運営・活動の際にその根幹部分にあたる目標・目的の共有です。

目的(大目標)、自分たちの団体は何を目指しているのか、何故存在しているのか、それらをきちんと理解・共有する。次に、学生・地域のニーズを十分に知ることによりやりたいことを明確にし、また、目的を達成し実現しやすくするために「年間目標・年間計画」(中目標)をつくる。〈組織・グループの「年間目標・年間計画」を考えるための質問〉と〈組織・グループの在り方に関する「目標」を考えるための質問〉を考え、これをもとに計画を立てる。最後に目標を実現するための「個別の活動の目標・計画」(小目標)をつくり、実際の活動のイメージができるような「企画書」をつくる。

今後の課題は、今回学んだことを、どのようにボラセンの学生スタッフに伝えるか、広めていくかである。

藤原 恵太
(文学部 1年次生)

組織におけるリーダーの在り方について、得るものが多かった。副代表としてセンターに関わっていく上で、どう関わっていくか分からなかったが、赤澤さんの講義を聞いてリーダーとしてやるべきことが見えてきた。また、目標・目的を立てる重要性を強く感じた。

外部のセミナーに参加したことは今回が初めてで、期待と不安が入り混じった感情だったが、実際に参加してみて他大学の学生スタッフと交流することの大切さを感じた。他大学との交流は自分たちにはないものに気づくことができ、さらにこれから活動していく上でのエネルギーになることが分かった。他大学との交流はこれからも続けていかなければならないと感じた。

研修名	<p>[2013地域福祉活動フォーラム in しが ～地域にひろげようみんなの“ええ顔”～]</p> <p>① 全体会 「子どもの貧困を考える」 講師：NPO 法人山科醍醐こどものひろば 幸重 忠孝 氏</p> <p>② 分科会 避難所運営ゲーム HUG 「災害が起きても安心な地域づくり ～避難時の混乱を体験しよう～」 講師：彦根市社会福祉協議会 松居 智和 氏</p>
日時	2013年11月20日（水）10時30分～15時30分
場所	滋賀県立長寿社会福祉センター
実施主体	「2013地域福祉活動フォーラム in しが」実行委員会
参加人数	学生スタッフ 5名

■経緯・目的

このフォーラムは、地域福祉活動の活動者やこれから活動を始めた方がお互いに交流し、学び合い、そして元気になることで、今後の活動がより一層広がることを目指している。そこで、我々学生がどのように地域と関われるかを探るために参加した。

もつ子どもたちに、学校だけではなくインフォーマルな教育や生活援助の場が必要だと強く感じました。

■概要

- 10:30～ 開会、オリエンテーション
- 10:45～ 全体会
- 12:00～ 昼食休憩、コーナー企画
- 13:00～ 各分科会（5つ）
- 15:15～ フィナーレ
- 15:30～ 閉会

吉田 裕貴（国際文化学部 4年次生）

自分のまわりにもこのような貧困があることに驚いた。先進国とされている日本で多くの人の見えないところにある貧困はある意味で途上国の貧困より難しい問題であると感じた。気づこうとしなければ気づけない貧困に敏感になって自分に出来ることを探していこうと思った。ただ、講演を聞いて泣いているだけでなく実際に行動出来る人になろうと思った。

■参加者の感想

① AM:全体会

西牟礼 智美（社会学部 4年次生）

「子どもの貧困」と聞くと発展途上国のことを考えがちですが、日本でも6人に1人の子どもが貧困の水準で生活していることに驚きました。家族の多様化で様々な家庭事情を

② PM:分科会

避難所運営ゲームとはゲーム参加者が避難所などを体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所でおこる様々な混乱を疑似体験するゲームです。

仲田 匡志（社会学部 2年次生）

HUGという避難所運営に関するゲームを

被災したことを想定しながら進めていきました。そのゲームを通し、本当の災害時にはより多くの問題が発生し、そのことに即座に対応できる知識を身に付けることが必要だと思いました。滋賀でも最近災害が起こったように、いつ緊急を要される事態が身近なところであるか分からないので、学ぶこと、伝えることを大切にしていこうと思います。

山下 凌司（国際文化学部 2年次生）

多くの場合早くに避難所に到着した人から壁際を占有していき、避難に時間がかかる人が自然と中央付近に集まり移動が難しくなり体調を壊すということを知り、避難所を運営するリーダーの必要性を感じました。今回学んだことをもとに有事の際には自分がリーダーとなれるように、これからも学んでいきたいと思っています。

野口 幹（国際文化学部 1年次生）

被災したらまず、避難するということは多くの方が意識するように、私もそうであった。だが、今回のゲームで避難した先でどのようなことが起き、どのような生活を送ることになるのかを学んだ。私はゲームの最中混乱しっぱなしで、とてもこの学んだことを広められる立場では無いが、「避難した先の生活」を考えるきっかけを提供することはできると思うので、実践していきたい。

〈報告者：野口 幹〉

